

年 組 名前：



太陽光発電設備を導入したリバーシティ店
 中央市山之神

太陽光発電 16店追加

オギノ、全店舗の半数に

スーパーのオギノ（甲府市一丁、荻野寛二社長）は本年度、県内外の16店舗の屋根に太陽光発電設備の整備を進めている。店舗での自家消費を予定していて、使用電力の3〜4割に当たる年間約430万路時の発電を見込んでいる。

同社によると、8月までに峡西店（南アルプス）やリバ

ーシティ店（中央）など計14店舗に設置。塩山店（甲州）と富士川店（富士川）の2店舗には来年1月までに整備を予定していて、昨年度までに整備を終えた7店舗と合わせ、本年度中に全46店舗のうち半分の23店舗に設置が完了する見込み。

太陽光発電の電力は、店舗の照明や冷蔵設備などに使用

され、店舗で使用する電力の30〜40%を補えるという。火力発電と比較して年間で約2800トンの二酸化炭素（CO₂）削減につながる見通し。

同社は循環型社会の構築に向け、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に貢献しようとして、太陽光発電設備を設置することにした。同社の担当者「太陽光発電のほかにリサイクルやプラスチックの削減にも取り組んでいる。今後、環境に配慮した活動を推進していく」と話している。

〈山本昂輝〉

(2022年8月26日付 山梨日日新聞7面)

問1

スーパーの屋根に太陽光発電設備を整備することで、年間の何割分を、発電でまかなえると見込んでいますか。

.....

問2

スーパーの屋根で太陽光発電された電力は、何用として使われますか。

.....

問3

太陽光発電をすることは、火力発電と比べ、何が良いのですか。

.....

問4

このスーパーでは、SDGsの活動の一環として、太陽光発電以外に、どのような活動に取り組んでいますか。

.....